

# 態 度 の 学 習

岡 本 一 平

(高知大学教育学部教育学研究室)

我々の思考 記憶 及び学習過程の決定に於ける態度の支配的役割は十九世紀後半の Ach その他独乙の研究者の研究労作以来多くの心理学者によって認められて来たところである。現今「態度」は我々が諸事実から抽出する多くの結論を決定するのみならず、我々がすすんで認めんとする事実そのものにも影響すると云うことは齊しく認められた事柄である。係争的問題の多い社会科学領域に於ては、ある立場の提唱者は反対の論者の強く主張する論拠としての諸条件の存在を否定する場が多いことが考えられる。歴史的に態度の概念は政治 経済 宗教の比較的恒常的傾性や短かい間の傾性を決定する精神的な構え 意図を含むものである。然し習慣によって、この態度の概念は社会的事態を特定の仕方理解し、その理解に従って行為する長期の傾性即ち社会的態度を意味するように限定されることとなった。所定の材料に望ましからぬ態度を持つ生徒は、その態度が望ましい生徒よりも、より多くの困難を以てその材料の学習をなすことは観察のよく示すところである。実験的に Levine と Murphy は共産主義者に友好的な態度と反対的な態度とに依って、生徒を組分けした場合、共産主義を賞讃する文章及び批難する文章の暗誦に於て、極めて著しい速度の相違の存在することを明かにしたのである。Edwards は人々は彼等の態度に適合する事項を講演の中から選びとり、暗誦し、彼等の所信と対立する資料は拒否すると云う仮説を実証したのである。多くの研究は人々は彼等の所信に一致する諸事実を最も容易に身につけることを示唆して、所定の分野に於ける態度と知識の間の相関性を示している。従って、態度は多くの教育活動の基礎であると同時に亦態度は教育の所産である。即ち民主主義の進展は学校の児童生徒に発展させられる態度に依存すると思われる。有能な市民性の資質として技能並に知識は重要であるが、それらが適当に方向づけられない時には、それらは民主主

義をくつがえし弱体化する為に用いられることも考えられるのである。我々の技能や理解がどのように用いられるかを決定する重要な鍵は、我々個人が抱くところの価値観である。若しも、我々の価値観の構造が民主的諸原則に一致したものでなければ、各個人の能力が各自の個人的利益の促進のためにのみ用いられることになることも考えられる。技能が用いられる様式、個人が社会問題に対して抱く理解 認識 興味等は大幅に個人が発展させて来ている価値観の構造様式に依って決定されるのである。この価値観の構造様式の内容の大半を構成する社会的態度は、従って市民性の陶冶に於て獲得される特殊な知識と技能よりも遙かにより重大である。Lawrence K. Frank は以下のように云っている。科学と技術学と同様に知能 合理性 技能はそれらを用いる個人を支配する感情や価値観の下男にすぎないものである。

## (態度の本質)

Daniel A. Prescott によれば、態度は行為の強い決定者であって、すべて個人が何を見、何を聞き、何を思考し、何を実践するかは一重にそれらの要因に依るものである。Allport, G. W. によると「態度は一種の精神的 神経的な準備の状態である。それは経験によって構成され、一定の個人が関係しているあらゆる対象並に場面に対するその個人の反応に対して、指示的或は力学的影響を及ぼす」ものである。

Thurstone によれば、態度と云う用語は、人間の傾向と感情と偏向或は偏見 既成の概念 観念 恐怖 特殊の題目にかんする信念の総体を示す為に用いられるものである。家族 教会 政府にかんする個人の態度はそれ故、それらの制度、施設にかんして、個人が感じ考えるすべてを意味するのである。

こうして態度は二つの性格を持つ存在である。その一つは人間の行動に対する一つの準備状態と

いうことである。Allport は更にこう言っている。態度は表面に現われたもの、消費し尽されるものと言うよりは、寧ろ源泉的のもの準備的のものである。それは行動ではなく行動への準備である。それは既に忘却された習慣の極めて潜在的な、言わば活動休止の痕跡から、現在の行動過程を強力に決定する緊張や情緒に至るまで、いろいろの程度の準備として存在する。態度の第二の性格は、それがわれわれの行動におよぼす指示的效果である。この性格について彼はこう言っている——もし指示する態度を持たなければ人は混乱させられふらつく。人が満足な観察と適当な判断をなすうる為には、その前にある種の準備が必要であり、さもないと、極めて原始的な反射的様式の反応しか為し得ないであろう。態度は各人に対して、何を見、何をきき、何を考え、何を為すかを決定する。William James の言葉を借りれば、態度が世界に意味を附与し、或は混沌たる環境に境界線を引いて分凝させる。それは漠然とした世界の中に、われわれの道を見出す為のわれわれの方法である。

(態度の形成) どうして人は或る一定の態度を所有するに至るのであるだろうか、例えば或る人は自由主義者であり、他の人は保守主義者であり、又宗教的態度であり芸術的態度である。一般に、人の態度形成の原因又は起源は何処にあるのであろうか。態度はその具体的姿においては後天的のものであり、成長し発達し変容する。Allport に従えば、態度は次の四つの形成の過程を持っている。

- (1) 集成 (integration)
- (2) 派生 (differentiation)
- (3) 創傷 (trauma)
- (4) 採用 (adoption)

1. 第一は度々反覆された類似のタイプの反応の統合或は構造化による。即ち類似の経験を長期間に亘って累積することによって生ずる態度の発達である。例えば、若しも、ある個人が Negroes に不快な経験を数多く持つならば、民族としての Negroes に対するその人の態度は、そうした諸経験によって影響される恐れが多分にあり Negroes 全体を恥知らずで、不正置で、怠け者であると考

えやすいのである。これと反対に Negroes や外国人に関する経験が概して、快適で友好的であった場合には、すべての民族や国民に対して寛恕の一般的態度を發展させる傾向があると思われる。精神衛生学者の主張では、この方法は態度を發展させるに最も満足すべき方法である。けだし、個人の行為に一貫性を附与する価値体系に個人の傾向性 気質 態度 欲求を体系化させるからである。こうして、出来上った態度は屢々個人の経験および社会的接触と価値観の背景の集積結果である。

2. 第二ははじめ漠然とした原型的未分化の態度から、具体的で複雑な態度への分化 (differentiation) である。始め幼児は二つの原型的未分化の態度即ち接近と拒否を持つのみであるが、後これがいろいろの具体的態度に分化形成すると言われる。Davis の例によれば、漠然たる不満が先にあって、それによって、多くの革命的思想に次から次へと興味をもち、最後に共産主義によって具体化され、特殊化されるに至るが如き case がこれに該当する。

3. 第三の創傷の起源として、劇的経験や異常経験の衝撃から来る固定化 (fixation) をあげることができる。即ち、時に態度の源泉は単一の強烈な情緒的な経験の中に発見されるのである。そうした経験は極めて幼年時代に起きることもあり又成人に成長後起きることもある。そして、時には、それを惹起した偶然的の事件は忘却された後も長く保持されることがある。殆んど、すべての人がある種の強怖 偏見等をそのようにして体験された経験に跡づけることができるのである。態度と云うものは、普通統合或は分化を通して、漸進的に發展するものであるが、この種の単独の経験或は非常に意義深い社会的事件は、驚ろくべき迅速さで態度を変化させることがある。例えば、国民の誕生 (The Birth of a Nation) と云う映画は Negroes に対する多くの人々の態度の上にこの種の影響を与えたので著名である。戦争が多くの人々の態度の上に激しい影響を与えていることも周知の事実である。重大な衝撃を受けた唯一回の経験で人の態度が形成或は変更されることがある。又外傷的若痛例えば入歯の苦痛から歯科医

を嫌う態度が子供に形成されるのもこれである。この原因からくる態度は特に情緒的色彩をおびるであろう。危機に際会して、これまでの態度に基づいての反応がそれを解決し得なかった場合、自分の名誉や経済についての重大な Shock を受けた場合、強力な歓喜と感激に浸った場合には間間われわれは豁然これまでの態度の誤りを認め喜んで新たな態度を受入れることがある。

4. 第四の態度構成条件としての採用は権威者の態度や社会一般の態度を模倣したり受容したりすることから形成される方面で謂わば既成品としての態度を受取るのである。暗示 模倣による態度形成であって、固定的にして伝習的な態度が何等検討吟味されることなくして、受け入れられ道徳 政治 宗教 其他の民族 外国人に対する態度は両親から子供へ、集団から集団へと手渡される。無批判的に両親の見解を児童期を通じて受け入れていた子供は屢々児童期経過後も、その両親の見解を模倣し続ける傾向がある。Bell の指摘する如く、他人の既成の態度のそのままの受容は劣を除ける方法で面倒な論争より人を解放するものであるが、不幸にして、そのようにして習得された伝習的な価値観の体系は、急速に変化する世界に於ては役に立たないものであることが多いのである。

態度の発生又は形成の条件が、このように分析されうる以上、少なくとも理論的には態度は教育することができ、修正や形成が可能な筈である。最近のいくつかの実験的研究は、態度は一定の影響を与えることで変容しうることを証明した。Marple, C. H. 政治的問題、経済的問題及び社会問題についての集団の意見並に専門家の意見の暗示に対して、三種の年令層の被検者が如何に影響されるかの比較研究を行った。その結果は、此等論争問題についての態度への影響力に於て、権威者の意見以上に集団の意見の力が大きいことを証明した。このことは圧力をもつ集団の宣伝力の偉大さを物語っている。又それは、高年令層の態度が、一層固定して変容し難いと言え、一般に人の意見は高度に融通性 可変性にとむことを暗示している。

## (方 法)

### (1) 映 画

映画は現場教師が青少年の教育の為の媒介として、その有効性を認識して来たので学校授業の方法の中で、より重要な役割を演ずるようになって来たのである。映画は直接的な感覚的な方法を通して生徒に経験を附与することを可能ならしめるのである。この方法は言語的符号を生活場面に実践的に応用することに困難を持つ生徒には特に有効である。映画の利用によって、学級授業の中に外国の人々や昔の人々や社会風習や現実的な社会問題の数々を持ちこむことができるのである。日常生活の単調な事柄を劇的なスリルにみちた経験にしてみせ、劇的な経験を我々に味はしめることのできる映画の力は、映画を見る人々の社会的態度に強力な影響を及ぼし得るのである。映画が社会的態度に与える影響を的確に把握するために Peterson と Thurstone は北イリノイの 12 の小さな郊外の中学生に一連の実験を行った。6 学年から 12 学年までの約 4,000 人の生徒がこの研究に含まれていて、大学生の Group も亦これに参加したのである。13 種の Film が用いられその効果は Thurstone の attitude test で測定された。測定は映画を見る前と後に行われた。13 種の映画はドイツ人に対する態度 死刑に対する態度 ネグロに対する態度 賭博に対する態度 禁酒に対する態度の八つの態度に連関するものであった。これらの映画を実際に見せて態度の測定を行った結果、映画の態度に及ぼす影響力の極めて大きいことが確認された。例えば Dale によると、中国人に対して寛容な態度を持つように作られた「神々の子等」という映画も、大きな影響を与えた。この映画を見た後に中国人に対して寛容な態度をとる者が 18% も増加した。そして、この中国人への好意は 19ヶ月の後にも 60% 残っていた。一度見ただけで余り効果のない映画でも同じ傾向のものを何回も繰り返して見せると、はっきりした効果が現われることも、この実験によって知られた。例えば、犯罪者への同情を主題とする映画を一種類だけ見たときは余り態度は変わらないが二種類見ると 4% が変化し三種類を見た場合には 8% 増加するといった現象がそれである。映画によ

て得られた価値観は長い間たっても消え去らないことも一つの特色となっている。

#### (2) 見学による方法

教育の方法として観察をとり入れたのは歴史的に言って極めて古いことに属する。

Aristoteles, Socrates 共に見学旅行の方法を用いており Comenius は見学旅行をすぐれた方法としてすすめているのである。Rousseau は見学による方法を Emile の教育の主要な技術と見なしたのである。Swiss のすぐれた教育先哲の Johann Heinrich Pestalozzi は直観教授法として観察と実験 (Observation and experimentation) とを特に強調していた。近代の教育方法はこれらの人々を祖とし、直観教授を中核として発展して来たものと言うことができるのである。

青少年に有効な教育を行い自国並に自国の問題を現実的に理解せしめるためには彼等に多くの社会的経済的的政治的事態の直接経験を附与することが必要である。映画は既述の如く、様々の問題や条件を現実的なものたらしめるに有効であるが充分ではない。賢明にして、理解力にとむ指導者の下になされる地域社会への見学旅行は地域社会の実践的機能の様態 問題 長所の全貌を把握させるものである。裁判所 工場 発電所 農場等の見学は映画よりもより現実的な経験を与えることができる。Columbia University の附属高校の生徒の実験グループはアメリカの社会経済的生活の多様な側面の実地見学の為、各種の産業施設 炭坑 労働組合本部 工場 農園 その他 社会施設の大規模な見学旅行を行った。そして政治的経済的論争問題に対する態度や価値観や信仰の判定規準に関し、八年研究の評価委員会によって発展させられた Belief Test の scale が用いられた。これは第一の規準 態度の確定性 (certainty) 即ち与えられた問題に対して何れか明白な態度や立場をとり得るその度合と第二の規準 態度の方向性 (direction) 即ち多方面の問題に対して共通的にその人がとりうる態度の方向であり傾向である。第三の規準 態度の一貫性 (consistency) 即ち、態度の方向性が例えば自由主義的方向にせよ或は保守主義的方向にせよ、とも角、常に一貫しているかどうかの採点評価規準である。換言すれ

ば同一の問題に対して時間的間隔をおいて、度々反応を求められる場合、どの位、その生徒が前後矛盾しない一貫した態度の方向をとりうるかその度合である。かかる態度の一貫性も亦その態度の成長発達の場合の一つの指標となり得る。この三つの採点評価を凡て含んで作製された態度テストで中学生 高校生を対象に民主主義 経済関係 労働及び失業 人種 国家主義 軍国主義の六つの領域にわたる態度測定を行った。見学旅行グループと残留学習グループとの比較がなされた。この比較調査の点数の検討は、産業施設見学グループは旅行以前よりも旅行以後あらゆる領域において、より自由主義的、より確定的、より一貫的な態度を示し、又残留学習グループに比較しても自由主義 態度の確定性 態度の一貫性の点でより積極的であることを示している。また、Scale of Belief Test の測定結果は見学旅行を行った生徒は労働及び失業 人種 国家主義 民主主義に対して、出発する以前よりも、より自由主義的一貫的な態度を示した残留組 (The home group) は比較的彼等の態度に於て僅かの変化しか示さなかったのである。かくして、その他の多くの見学旅行は青少年に望ましい態度を發展させ、社会的問題に対する自覚と関心を増加させ、個人の尊厳と価値の評価を深化させ、社会状態を改善する為の協力的行為の必要感を發展させる為には極めて有効な学習経験となることを示しているのである。

#### (3) 地域資源の利用

地域社会は多くの資源を提供していて、進歩的教師はそれらを用いて創造的協力的社会的実践を要求する諸活動に青少年を参加させる機会を用意することができるのである。学校や地域社会はそのような機会を用意して初めて青少年に地域生活のすぐれた参加に求められる社会的行動と社会的責任を發展させることができるのである。もっとも、地域社会を実験所として活用せんとする熱意を充分持ちながら、教師がその目標を明確に把持していない為に、屢々生徒に与える地域経験が単に価値のないものであるばかりでなく、実務者や父兄に批判されるものになっていることもあるのである。具体的な事実 事物は強い印象を与える

がこの強い印象がどのような文脈について行われるかは指導の仕方によって異って来る。地域指導者の忠告と援助を受けて project が教師と生徒によって十分に計画され、その指導目標が明瞭に設定された場合に、地域調査や地域プロジェクトや地域活動は高度に効果的なものになるのである。こうした試みの最善の評価は屢々その project の成功とその project が生み出す社会的行動に看取される変化に存しているのである。おそらく、我々の現代民主社会に於ける最も重要な学習は、Dr. Hanna の指摘する如く、我々が持続的に郷土社会を改善する過程としての協同作業を尊重する社会連帯意識の学習である。

地域社会調査は地域的問題に対する関心を増大せしめ、社会的事態に於ける創意性 自信 社会的責任観 問題解決並に正当な結論構成の力の発展育成の結果をもたらすものであることが多くの教師に依って発見されている。Denver の生徒は Denver 市の婦人会に協力をして Denver の娯楽施設調査を行ったがその貧弱な娯楽施設と青少年犯罪 劣悪な保健状態 劣悪な住宅条件 高い幼児の死亡率の関連を知り Recreation program 拡大改善に関心を持って到っている。こうした調査活動や教師の報告は活動に参加した生徒の側に社会経済的自覚を呼び起し、市民の問題にかんする集団協力的活動に対する深い尊敬の念や、市民の義務の遂行から来る満足感を深めるものである。Colorado の教員養成大学の附中は多くの Community Survey を行っている。そして学校は特別に望ましい社会的態度発展の project の planning はしなかったのであるが生徒は礼儀 社会的知性 地域生活への興味 自信 創意性等を改善していることが発見されたのである。彼等は調査活動によって Community をよりよく理解し、集団活動が如何にその目的を達成しているかを知り又どのような社会的協同がなされ、地域全体の福祉と思われる仕事が社会的責任として、どのように尊重され実践されているか親しく学びとることができるのである。E. Olsen は School and Society の中の Social Survey そのものの教育的価値として (1) Community の構造や作用を一層高い程度に理解させる (2) Community の問題

動向を把握せしめる (3) Community の直面する課題を明かにする (4) 児童が直接参加協力すべき Community の仕事は明かにされる。 (5) 人間相互依存の関係を認識せしめる (6) Community の事実を周到に蒐集し客観的に解釈しそこから結論を導き出し、自己の意思を構成することに習熟のできる。Community Survey は地域社会の現況認識にとどまらず何等かの Community Action を結果すべきである。勿論、すべての調査類が地域の Leader の側に直接的行動実践を生み出すと云うべきものではないが、生徒達の調査研究が地域生活の何等かの変化を生み出し得ないならば、青少年は地域の実践的仕事への興味を容易に喪失しやすいものである。

California の Redwood City の中学生は町の住宅建設係りの人々と協力して地域の住宅条件調査を実践した。そして、その調査によって、劣悪な住宅条件の地域の保健に及ぼす影響について、その認識を深化させているのである。社会科教師はこれによって現実的教育経験を生徒に附与することに成功し彼等の社会的態度の変化と云う結果を得たのである。45名の男子の生徒と4名の女子生徒とが借家の家族数 借家の期間 住宅構造 家賃 採光 照明 通風の適否等にかんする質問紙調査を行ったのである。社会科教師の指導の下に、これらの中学生の蒐集提示した資料は地域の住宅要求を鮮明に図示的に明かにしたのである。但し児童生徒の社会調査は多くの利点を有するにも拘らず、これが児童生徒自らの真の必要に発したものでなく、教師の計画に従って児童生徒が唯その走狗と化する危険性を有することは十分に戒心されなければならない。

#### (4) 学級組織(学校組織の生徒の態度への影響)

青少年に民主主義を理解せしめる為には、彼等が民主的に幸福に生活する団体生活に必要な訓練と技術を発展させる機会を附与することが必要である。自己訓練は、自動的に行われるものではない。生徒は彼等自身の仕事を計画し必要な場合試行さくご的に mistake を行う経験を持ったり決定の責任を取ったり賢明な決定をなし仕事の個々の責任を果たす能力を育成する為に自律的自己統制を行う機会を必要とするものである。この場合

協同作業が形の上で行われるだけでなく、生徒が自分からすすんで行う協同になることの必要も注意されなければならない。価値感、自分でそれを選んだときに、はじめて身についたものとなる。生徒が協同の必要を感じず、また、その長所を評価し得ず、ただ、命ぜられたという理由でこれを行うのであれば、学級のグループ活動は、いかに頻繁に行われても、効果はない。そのため新しい教育の理論は協同という実践を学校にとり入れるときに、一定の形式的な指導をするよりも、生徒相互の協同に自由な試行の機会を与える方が一層重要だと考える。選択の余地を与え、試行錯誤的な経験を与えた方が、協同の本質について深い理解をもたらすことができ、よりよい協同の形態を見出すことにもなると主張するのである。二十世紀の新教育運動を代表する多くの学校は、この見地から学級活動に自由な余地をあたえ、人間関係における操作主義をとることを奨励している。Kerschensteiner が学級に求めた協同体的性格や Hermann Lietz(1868—1918)や Gustav Wynekén が青少年自身の文化創造の基盤として制限の少ない学級活動を置こうとしたことは、このような自由が大切だと考えたためで、与えられた自由によって青少年が誤った行動をとっても、それが、反省をする機会になるならばかえって有効な誤りであると見做したのである。確かに間違った対人関係の態度も、それがよくないことを気付かせる機縁となるならば、時には教育的であるかも知れない。多くの教師は学級に於ける Democracy は効果的でなく、生徒それ自身が、学級授業の方法の planning の決定を行ったり、決定に参加したりするに十分な年齢でもなく又それだけの賢明さも持たないもの故、警戒すべきものであると考えて来たのである。一方それと逆に民主主義に熱心であるが行きすぎた一部の若い教師は学級に於ける指導的位置を放てきしてしまって生徒を放任しているものもみられるのである。こうした自由放任の教師の態度は anarchy を結果するのが普通であり、他の教師まで精神的にいしゆくさせ学級民主化の実践を恐れさせることになる傾向がある。民主的雰囲気は青少年に及ぼす影響の最も興味のある研究の一つは Iowa 大学に於ける Lewin と

Lippitt に依って行われた実験である。Lippitt によって行われた最初の実験は10才児の二つのクラブについてであったが更にその実験をより綿密な実験に発展せしめて4つのクラブと4人のleader についての試みとされた。各クラブは5人の10才の男子から成り立ち、クラブの成員は志望者の中から彼等の学校記録 交友関係にみられる Rejection friendship, leadership 教師のテスト評価 従順 身体的力等々の項目別の綿密な研究を経て選定されたものであった。彼等は彼等の興味を呼ぶ活動即ち、面作り 壁絵描き 石蝕彫刻作業 模型飛行機づくり をクラブ活動として行ったのである。各クラブは民主的方法 独裁的方法 自由放任的方法を夫々用いる指導者の下に配当され6週間の間は、5ヶ月の課程を通じクラブ毎に新しい指導技術の3人の指導者を迎えたのである。独裁的統率と民主的統率は4人の指導者の二人によって与えられ、自由放任の方法は指導者の中の二人によって与えられた。そして、これらの Social atmosphere の各々の中に於ける児童の行動は注意深く観察網によって児童と隔てられた観察者によって記録されたのである。グループの全活動 グループの成員間の社会的相互作用 グループの構造にみられる力動的変化等の綿密な社会心理学的分析記録がなされた。更に児童の観察のみならず児童と教師との会話 教師と両親との面接との記録等が社会的雰囲気は少年に与える影響の調査が加えられた。この調査では数種の Test Situation が整えられた。即ち指導者は Social pressure atmosphere が分析されるように club meeting の間は教室を出ていているが観察者として自発的の仕事の場合の自発性 洞察力の個人的集团的雰囲気は差異の研究のために遅れて教室に入っている。亦、時に未知の外来者が教室に入って傍観者の影響をみるためにクラブの仕事を批判したのである。独裁的事態 民主的事態の両事態に於て指導者はその集団の如何なる成員よりも多くの自発性を発揮した。独裁的指導者は外の少年よりも118のより多くの示唆をなし民主的指導者は更に51より多く示唆をなしている。然し、興味あることは学習活動 生徒クラブ活動の進展につれ民主的指導者はその責任を軽減して行き独裁的

指導者はますますその責任を重くし自己に集中して行ったことである。生徒達は独裁的指導者をその性格のいかんにかかわらず憎悪することに於ては軌を一にしたのである。自由放任の指導者の場合、10人の中7人の生徒までは独裁的指導者よりもより多くの好感を示した。独裁的集団には極めて多くの緊張の具体的現われが存在していた。最初の実験の場合、40回以上の争いが民主的雰囲気 of 集団よりもより多く示された。この進攻性は敵意 怒り 注意の要求 他の生徒の作業についての敵意にみちた批判 不親切等の表現によって示された。やがて、集団内の成員の相互攻撃の行為からその集団の成員の一人に対する集中的攻撃の行為への転換がみられた。指導者に対して、生徒は従属の態度或は注目を求める持続的な要求の態度を示したのである。第二回の実験では独裁的集団の生徒は過度の進攻性を身につけ情感に乏しく生氣を欠如するものになっていることが知られた。彼等は活動を好むが故に彼等の仕事を遂行する面もみられるが、実は怠惰で氣力を欠ぎ自主性を失っている点がみられたのである。Lewinはこの集団にみられる進攻の欠如は恐らく frustration の欠如によって惹起されたものではなく独裁者の抑圧的影響によって誘発されたものと主張している。

Lewinはこの彼の解釈の具体的事例の事実として、独裁的指導者が教室にいない場合、積極的攻撃行為の暴発がみられ *laissez-faire atmospheres* への推移が看取されることをあげている。自由放任の集団は独裁的の集団よりも争いが多くみられた。民主的集団に於ては生徒間の相互作用は自発的 友好的 より事実発見的であった。その指導者に対して自由にして気楽な氣持が存在していたし彼等は指導者を自分達と同一視する氣指がみられた。民主的集団に於ては独裁的の集団に於てよりも集団的作業が遙かに多くなされたのである。このことは、生徒達の言語 行動に表現された生徒の我々意識の感情の自然の発展であった。社会的

雰囲気の変化がイデオロギー、及び実践に影響する迅速さは注目すべきである。民主的雰囲気の下では教室に指導者の不在の場合もよく仕事を続けた生徒達も独裁的扱いとその雰囲気の下では態度実践の変化がみられその仕事の続行は望めなかったのである。然し、実験者は民主的自治方式を確立するのは独裁的の自治方式を確立することよりもよく多くの時間のかかることを発見したのである。民主的自治組織は生徒全員の積極的参加を前提要件とする。この能力を生徒が獲得するのは時間のかかることである。民主主義はその成員の一人一人の上に積極的参加を要求することは独裁主義のそれよりも著しく、一人の脱落者がその全体の雰囲気 に害を与えることもより甚だしいとされている。Lewin は民主的雰囲気の下で学習作業をする生徒は民主的以外の型の指導の下で実践する生徒よりもその学習実践の成果に於て遙かに優秀であることを発見している。協力と統率の存在しない自由放任の集団の場合、生徒相互間に相互防害の傾向がみられたのである。生徒の不適應は彼等の争い 皮肉等に示された。独裁的指導の下では生徒はその権威がその場から除去されると学習作業を放てきする傾向を示し易い。

Lewin その他多くの種類の調査研究は望ましい社会的態度は日常の教授の副産物として發展するであろうと云う主張は正当化され得ない学校側の楽天的推測であることを示している。Hannaは態度教育に関する十幾種の研究をまとめて以下の如くのべている。態度の訓練は極めて特殊のものであって、唯通常の授業をやっているだけでは社会的態度に対して左程の影響を与え得ない。然しながら、青年に現実的にして意味深い数々の問題を強調し、注意深い指導計画 民主的指導方法を綿密に企画実践することによって個々の分野に於ての態度や偏見を修正することができ、又、知的にして円満な市民として社会的に位置づけられる健全な人生觀並に価値觀を育成發展するに役立ることが期待されるのである。

#### (引用文献)

- (1) Lichtenstein, Arthur 「Can attitudes be taught?」
- (2) Prescott, Daniel A 「Emotion and the Educative Process」
- (3) Symonds, Percival M. 「Diagnosing Personality and Conduct」

- (4) Thurstone, L, and Chave, E. T. 「The Measurement of attitudes」
- (5) Darley, John G., 「Changes in Measured Attitudes and Adjustment」
- (6) Eckert, Ruth C., and Mills, Henry C 「International Attitudes and Related Academic and Social Factors」
- (7) 橋本重治「教育評価法」
- (8) 吉田 昇「現代社会と学習指導」

(昭和33年9月29日受理)